

● 伝承館見学・福島水素エネルギー研究フィールド視察(2023-4-21)

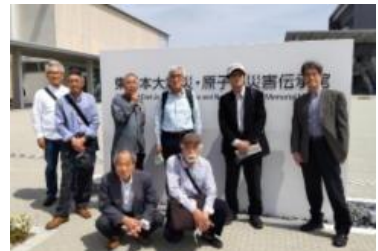
4月21日(金)午前中、福島県双葉郡にある「東日本大震災・原子力災害伝承館」 <https://www.fipo.or.jp/lore/>を見学いたしました。

2011年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災で経験した、地震・津波・原子力発電所事故による、複合災害がいかに過酷であり、そして今もその影響が続いていることを、いろいろな展示物、語り部講和などを通じて紹介されています。そして震災の記録と記憶を教訓として防災減災に役立てています。

REPA 会員、関係者は、霊山での復興支援活動を事故発生以来、継続しておりますが、被害の甚大さ、影響の深さ、将来の課題などを新たに認識し、さらなる REPA 活動継続の重要性を認識しました。

午後は、福島県浪江町棚塩産業団地にある「福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)」を視察しました。太陽光パネル20MWの電気を、アルカリ水電解装置で電気分解し、約1200Nm³の水素を製造しています。発生した水素は150m³の8本の水素ガスホルダーに保管されています。天候により太陽電池の発電量が変わり、また水素の需要も変動するので、東北電力の系統と連携させ、気象変化予測、水素需要予測を見込みながら、最適な運用が出来るよう制御されており、水素を再生可能エネルギーの『調整力』として有効利用する実証研究が行われていました。

詳細は[視察ツアー](#)ページを参照下さい。



東日本大震災・原子力災害伝承館前にて

**● 2023年霊山春のつどい (2023-4-22)**

これまで毎年春と秋に霊山の集いを行ってきましたが、新型コロナの影響で、顔を合わせた集まりが2019年以来出来ておりませんでした。今回新型コロナも下火となり、ようやく再開することが出来ました。今年は「ほまじのわ」出荷五周年記念の年でもありました。

霊山春の集いは4月22日(土)10時から下小国の山下公民館で行われました。その前に大沼霊山プロジェクト現地代表大沼氏、地元の皆さんの案内で、ほまじのわの素材を栽培している畑、河津桜を植樹して4年経つ砂防ダム前広場などを案内して頂きました。桜の花は例年より3週間早く咲いたので、残念ながら見ることが出来ませんでした。

10時からは「ほまじのわ5周年出荷記念集会」として行われ、

- ・ 霊山プロジェクト現地代表挨拶 :佐藤好孝氏
- ・ ほまじのわでの REPA 支援・アンケートの紹介:PERA 代表理事 :保坂英夫
- ・ ほまじのわ 5 年間の苦労話 :大沼光子氏
- ・ ほまじのわ並びに、霊山プロジェクトの今後の運用等 :全体討議

が行われました。特にほまじのわのアンケートの紹介では、貴重なご意見をいただき次回以降の製品改良などに反映していくこととしました。

11時からは、霊山のメタン発酵を原点として、現在埼玉県宮代町で展開されている「宮代町プロジェクト」の紹介を行いました。

- ・宮代プロジェクトの現状、今後の活動:保坂代表理事、佐藤茂夫理事
- ・バイオガスマイスター認定制度:保坂代表理事
- ・クラウドファンディングの紹介:尾園会長

12時からは霊山地元婦人会の真心のこもった手作りの昼食を堪能しました。

午後は地元八島会員の案内で、REPA 希望者が花見山公園へ向かいました。



ほまじのわ素材栽培畑での記念撮影



地元大沼光子氏の苦労話
の数々



保坂代表理事のほまじのわ5周年記念等紹介



現地霊山プロジェクト佐藤会長挨拶



地元婦人会手作りの昼食